



五木東小 第17号

学校便り
文責
生田 文明

感謝の気持ちを込めて歌いました

「だんだん」祭り

五日は、福祉センターで、だんだん「祭り」が開催されました。参加されたおじいさん、おばあさんの前で、合唱「友だちはたからもの」と斉唱「正調五木の子守唄」を披露しました。

今年、新しい試みとして、各地域の紹介を行いました。スクールバス登校のため、地域の方々と接する機会が少なくなった子どもたち。地域の方に、ぜひ子どもたちを覚えていただき、地域の宝として、今後も見守り、育てていただきたいという願いから行いました。

地域毎に名所や旧跡、自然の様子を紹介しました。また、各地域の子どもの人数紹介の場面では、「えー」という声が一斉に上がりました。おじいさん、おばあさんが小学生のころに比べ、人数がとも減っていることへの驚きの声であったように聞きました。今後も、五木の子どもたちをよろしく願います。

心の集会

今回は、夢や希望を持つことのすばらしさ、困難や失敗にくじけず目標に向かってやりとげることの大切さについて、パラリンピック金メダリストである、浦田さんの話をもとに、心の集会を行いました。

「だれにでも、きついこと、つらいこと、悲しいこと、困難なことにぶつかることがあります。このような壁にぶつかった時、がむしやらによじ登ってもよし、遠回りしてもよし、壁の上の人から引き上げてもらってもよし、前向きに考えることが大切です。いいわけをして、逃げてても何の解決にもなりません。壁は、自分を高める神様からのプレゼント。自分を高めるチャンスでもあるのです。」

子どもたちは、病気で目が見えなくなっても、くじけることなく目標に向け邁進する浦田さんの姿に、心打たれ、前向きに生きることのすばらしさを学ぶことができたようです。

鮎釣り名人になろう

「優しさいっぱい五木村」というテーマのもと、「鮎」について調べる三、四年生のグループでは、九月三〇日に木下さんを講師としてお招きし、鮎釣りの仕掛けやアユの釣り方について教えていただきました。

子どもたちは、実際に十mほどある竿を持たせてもらいました。その立ち姿は、もう鮎釣り名人そのものでした。

～全校集会～

◎目の健康について

十月十日は、目の愛護デーです。そこで、三日の全校集会で、「目の大切さについて」について、話をしました。ものが見えなくなったらどうなるのだろうか。自分の目を守るためにはどうしたらいいのかなどを子どもたちに考えてもらいました。

また、「本を読む時は、少なくとも三十cmは離すこと。」「ゲームやパソコンは、一日三十分以内にすること。」「も確認しました。

これから、自分の目を大切にするために、自分にできることを考えて、日々の生活の中で、ぜひ、実践してもらいたいと思います。

◎発表する力をつけよう

全校集会では、毎回、月の生活目標の反省を各学級代表が行います。この発表は、自分たちの生活を振り返る機会になり、また、発表する児童にとっては、発表の学習のよい機会ともなります。分かりやすく発表するにはどうしたらよいか。発表の内容・速さ・声の大きさ・抑揚などの課題を持たせ、練習し、当日の発表に備えます。

将来、必要となってくる力の一つにプレゼンテーション力があります。その力をつけるよい機会として取り組んでいるところです。

